若山

京文山岳部報

No. 285　　'76　7月号

〔第1087回例会〕

姥ヶ岳と倉ノ又山　(T)

日　時　7月9日(金)～10日(土)　早朝出発予定

コース　京都一福井一大野一巣原一平家平…姥ケ岳と倉ノ又山登山

担当者　横大路　田中忠久(TEL601－9391)　申込〆切　7日(水)

備　考　マイカーで行きます。　1／2.5万図　「宝慶寺」「冠山」「能郷白山」

〔第1088回例会〕

不動山と千回沢山　(T)

日　時　7月18日(日)～19日(月)

コース　京都東I.C一関ケ原I.C一横山ダム一徳山一門入一千回沢出合(幕営)…不動谷(魚止メノ滝、不動ノ滝、蛇滝)…不動山△1240…千回沢山△1246…中ノ谷…千回沢出合　1／2.5万図　「広野」「美濃徳山」

担当者　本局　宮後正樹(TEL 251)　申込み〆切　12日(月)

備　考　マイカーで行きます。地下足袋とワラジまたは磯足袋必携のこと。

〔第1089回例会〕

白馬岳～鑓ヶ岳～唐松岳　(R)

日　時　7月18日(日)夜～21日(水)

コース　京都東I.C一伊北I.C一塩尻一松本一大町一八方一猿倉…白馬尻…大雪渓…白馬岳…白馬山荘(泊)…鑓ケ岳…天狗岳…不帰ノ険…唐松岳…唐松山荘(泊)…兎平一八方一往路帰洛　1／5万図　「白馬岳」

担当者　横大路　大西純一(TEL601－9391)　申込み〆切　12日(月)

備　考　マイカー利用、山小屋泊り。　費用　約15,000円

〔第1090回例会〕

南ア鳳凰三山

7月22日(木)～24日(土)　新幹線八条口8.00集合

コース　京都ー富士ー甲府ー芦安ー夜叉神峠（泊）…薬師岳…観音岳…鳳凰小屋(泊)
…地蔵岳…青木鉱泉ー穴山橋ー韮崎ー富士ー京都

担当者　五条　坂井　久光（TEL 368）　費用　約20,000円

地　図　5万図「韮崎」「諏訪」　20万図「甲府」

リーダー会

7月5日（月）　坂井宅

○今月の集会○

日　時　7月22日(木)　午後7時から　下鴨寮

議　題　1. 例会（№1085～1089）部員動静　報告
2. 8月例会（奥美濃、他）集会（横大路）について
3. 夏山（鹿島槍、八ケ岳）について
4. 連絡事項、その他

ー 当番　三哲支部 ー

山声雪語

マイカー登山への警醒

宮後正樹

高速道路での故障ワースト3が発表された。先ほど京都府警の高速道路交通警察隊がまとめた昨年1年間に京都管区（京都東IC～天王山トンネル間　約20Km）の名神高速道路で発生した2,358件の故障件数のうちトップがパンクで14.5%を占め、次いでガソリン切れが13.4%、3位がオーバーヒートの11.6%という。

アプローチの時間的、経済的、肉体的効率アップのためマイカー登山は正に花ざかり、正直いって小生も最近の山行は殆んどマイカーに頼っているのが実状である。それだけに高速道路を利用する機会も多く、この発表記事を見て今さらながら反省やら再認識をしている次第である。

マイカー登山についての申し合せは以前から山岳部内でもいろいろと論議もされ、すでに45年5月には「自動車の山登り利用について」として山村前部長も山声雪語に8項目の私案を発表され、さらに47年の10月には「山岳部例会（山行）のマイカー利用について」として、リーダー会議での決定事項などを発表掲載しているが、いずれも燃料費をはじめ、その他の経費分担についての取り決めばかりで運転そのものについての注意事項はない。

ゲレンデスキーをマスターしてはじめて山岳スキーが楽しめるように、少なくとも山岳ドライブをしようとするからには車の運転については当然にベテランでなければならない。それは単に運転技術だけではなく法規の遵守、運転マナーともに優れ、しかも細心の注意力をもって常に安全運転

に心がけねばならない。小生自身決してエラそうなことを云えるガラではないが、最近とみにマイカー登山でのいろんな声を耳にするので誠に野暮ったいことながら敢えてベテラン諸氏に注意を喚起するとともに小生自身の反省ともしたいと思う。

高速道路でのワーストナンバーワン、パンクは正に命とりである。常に対応できる心構えとその為にも高速道路といえどもスピードの出し過ぎを戒め、８０～９０Km／h位いに抑えたい。また高速時の片手ハンドルという横着運転を謹しみ、必要のない無理な追い越しや、他人の運転についてとやかく云うことは止めたい。「人のふり見て我がふり直せ」である。

またガソリン切れは、山ではこれまた致命的である。山行がガソリンスタンド休業日の日曜、祝日などに片寄り勝ちであるうえに、山岳ドライブはガソリンもよく食い、おまけにどんな迂回やゴーストップで思わぬ走行キロ増を強いられるやも知れない。加えて山間僻地に入ってしまうと容易に給油もまゝならぬことが多い。思い切って早目に給油し、安心して走行できる余裕を持とう。

オーバーヒートも高速道路に限らず、山岳ドライブでは禁物である。特に冷却水、オイル、バッテリーなどアマチュアドライバーでも簡単な点検で事前に発見できる故障である。

さらに山岳ドライブでは、地道、悪路でのスリップ、見通しの悪い急カーブでの出合い頭の事故防止に特に注意しよう。山間へ入れば同乗者は地図を出して道路のほか、山や谷の様子を見定めながら運転者にアドバイスをする位いの気の配りがほしいものである。

安全登山は「行って来ます。」と家を出たときから始まる。今後とも大いにマイカー登山の発展を希願し、楽しい山行をより一層楽しくする安全ドライブにお互い気をつけようではないか。

還暦記念登山のお礼

田　中　定　勝

山岳部の皆様には益々御健勝のことゝ御慶び申し上げます。小生還暦登山に際しまして、名誉部員の近藤、中村、山村３氏、部長並びに部員の諸氏家族の方々にも早朝より多数御参加をして頂き有難とう御座いました。

鈴鹿山脈竜ケ岳頂上にて三角点行事ののち、皆さんと共に乾杯して、記念品として（赤）チョッキを有志の方々より頂戴致し有難とう御座いました。

只今でも脳裏を去来して、感激も新たにして居ります。小生ももう還暦など他人事の様な気もいたしますが、これからも大いに精進してお伴させていたゞく積りで居りますので、今後共宜敷くお願い申し上げます。略儀乍ら御礼旁々御健康と幸た山行を御祈り致します。

例会予告　唐松岳～五龍岳～鹿島槍ヶ岳～針ノ木岳　(T)

日　時	８月６日（金）夜～１０日（火）		
担当者	横大路　岡本義弘（TEL　611－2076）	申込み〆切	７月22日（集会）
備　考	夜行列車利用、テント泊り	費用	約15，000円

早いもんやなあ

―― 回顧10年　山へ登ったか？

緑　峰　生

交通局を退職してから既に１０年たった。京交山岳部の諸君と別れてからも１０年というところだが、幸いにもその方は名誉部員、それも第１号という称号？をいただいてお付き合いを願っているので、外部に対しては交通局の山岳部員だということでまかり通っている。京都府山岳連盟でも参与という奉られた名称で役員の末席をけがしているが、これも母体である交通局山岳部あるが故だと有難く思っている。

それでは山へ登るほうはどうか。山へ登らない山岳部員では申しわけのない話だ。こういうと失礼にあたる面もあるが、この場合お許し願いたいと思う。然し私も在職中にはこのことを幾回となく云ったことはある。これは叱咤激励する意味もあってのことだった。即ち部員２００名を擁しているが、実働は何人なのかと云いたかったのであった。それは今の私には逆に反論されているような気がしないでもない。（だが、部の集会には時々顔を出してみて、矢張り全体的に低調なのかという気がする。ある一面ではそれも思いようで、部員がこれだけの山岳部だと思えば腹も立たないことである）

近頃、ある人たちは何百の山に登ったということを競うかのような風潮があるように見うけられる。それらの人の中には、1年に１００回も登った人もあるというから、山に登って生活している人かと思われるほど登山に関しては恵まれていると云いたい。その点では私はこの１０年間にいくつの山に登ったのであろうか。

人は歩くことによって健康を保つという。車に乗ることは霊柩車に乗ることだと極言する人もある。大阪の松村高氏は、９０才まで山に登るのだというので、私もそれまでつき合うと約束している。私が９０才まで山に登るというのではない。松村氏は私より１５才も年長だから、私は７５才まで登れば約束違反にはならないのだが、私も欲が出てきてこの年令をもう5年ぐらい上げようと思っている。松村氏は既に８０才で、つい最近マッターホルンにも登って来て、その登山最高年令の記録を更新したのだから偉大の一語につきるが、山の高低は言外にして果して私にこの願いがかなえられるであろうか。

私は京交山岳部報を2年分ずつ編綴製本して、最近第１１巻ができた。退職してからの5冊をいま懐しく再見しているのである。私は、1966年8月の部報№166に山声雪語〝老兵は死なず〟を最後に部報とお別れした。その号から数回に亘って宮後君が〝近藤部長と山岳部１７年〟と題する私の山岳部生活を総括してくれたのは非常に光栄だと思っている。側面から見ていると、自分で懐古するのとはまた異った意味で感慨無量なものがある。私は山岳部の改組１５年にあたって〝山岳部１５年小史〟と題する懐古録（歴史というつもりで書いたが、とてもそんな大それた物にはならなかった。）を書いたが、宮後君のそれはその外史ともいえるものである。その記事の終りが私

の退職送別山行の童仙房の１日であるが、それがまだ私にはついこの間のように思えてならない。

この１０年間に、私はどれだけの山に登ったであろうか。私も山へ行きはじめた昭和のはじめの頃は克明に記録していた。それも単なる山行記でなく、仲間と共に近畿の山の案内記を作ろうという予定があったからだが、これは昭和９年の室戸台風で窓がこわされ、記録一切が風に持ち去られて挫折してしまった。朝鮮での登山記録も持ち帰る余裕もなく、その後は余り記録をしないことになって正確につかむべくもない。いずれ整理して見たいとは思っているが……。

さきに1966年８月の№166で部報とお別れしたと書いたが、それは記録、紀行に関することで、その後愛着もだしがたくしばらく〝岳訓抄〟という文章を続けた。ガックンとしないようにと願ってのことだったが、これは長くは続かなかった。〝毒語缶〟という読後感では書評とか新刊紹介とはゆかなかったが、何か山に関係のある書籍について書いた。然し書くことは読むことであり、調べることであり、聞くことである。即ち勉強することである。もし機会を与えられるならば寄稿を復活したい気持にもなるが、それは所詮かなわぬ願いであろう。

交通局山岳部の例会に何回か参加した。例会は、この１０年間に約４６０回行なわれたが、それの何パーセントだったろうか。平均して毎年１回行ったことになるかどうか、あやしいものである。ひとむかしおいたこれからは、もう少し参加密度を高めたいとは思うが、果してついて行けるかどうか。

ご存じ、京岳連顧問今西錦司博士の提唱になる十二支会というのがある。近畿に発足して、当時は１山岳団体から２人以内、４０才以上の者で組織することとし、年１回干支にちなんだ山に登るのだが、それに該当する山が２個以上あれば低きをとるというのがルールのようであった。その後いくらか改変があって、女子は年令に関係なく正会員、男子は４０才未満は見習会員ということになり、１山岳団体２人以内の線も解消して、今では数名以上のところもあるようだ。私が最初にこの会があることを知ったのは昭和３６年で発足第２年目、ちょうどうし年で亀岡の牛松山に登るということで松阪山岳会の大西、山口ご両人が前夜下鴨寮にご宿泊、今西先生や京交伊藤氏が夕食を共にし、私もそれに便乗して挨拶に出かけた。山行に参加する資格はまだ私にはなかったので、京大２人（今西、和崎）、京交２人（伊藤、河村）の計６人の牛松山ではなかったかと思う。

前年の子の泊山は全く知らなかったが、その後のトラス、赤兎、竜門等を見送って（あとで、牛松山と竜門山は登って借りを返したが）、私は昭和４０年の滋賀県蛇谷峰から参加した。この頃は参加メンバーも可成り増えており、大部分は前夜から高島町に旅宿し、また山小屋で幕営している人たちもあった。私は田中君と登山当日の早朝、スキー持参で参加した。畑の部落から山にかかる頃積雪３０～５０cm、登るにしたがって１mにも達したので登高はいささか難渋した。ワカン所持者数名がラッセルをしたが、急斜面では胸までつかって雪中を泳ぐようなもので道がはかどらない。緩斜面になってもワカンははまって、ラッセル部隊はまことに気の毒であった。その点スキーの利点は大いに発揮されて実に壮観であった。参加者の中のある人は、こんなに雪があるのなら、案内に際してそのことを通知しておかなければいけないと苦情があったが、これを聞き流しておいた。下山後の夕食会で参加者の挨拶や自己紹介などがあり、私はその席で最低１まわりは参加しなけれ

ばなるまいと挨拶して、1まわりではいけない、2まわりも3まわりもせよとハッパをかけられた。その巳年がもう来年まわって来る。羊蹄山が欠けて、白馬山、猿が山、鶏冠山、犬伏山、白猪山、子の泊山、牛草山、虎が峰、光兎山から今年の龍門山と続いて参加した。

大阪の北口山スキー研究所の社長から、自分だけ山に登って楽しむのではいけない、もうそろそろ山を通じて他に奉仕したらどうかと云われて、大阪府肢体不自由児協会の主催する登山会に世話人として参加することになった。この会は既にその数年前から実施されており、乗鞍岳、立山、槍ケ岳などに足跡を印していたが、私が最初に参加したのは昭和45年の木曾駒が岳であった。その年私は乗鞍岳に夏スキーに出かけており、途中からパーティーに別れて下山し、塩尻駅のベンチに寝て夜をあかし、翌早朝大阪から来る一行と落ち合ってバスで駒根市経由ロープウエイに乗り継いで千畳敷に至り、そこから足で登ったのである。義手、義足、松葉杖使用などの身体障害を克服して高い山にも登れるのだという自信を持たせるのがこの催しの目的のひとつでもあり、参加している人たちは、心から明るい気持があふれ、暗さは全然感じられない。

翌年の西穂高岳は私の都合で参加できなかったが、47年の白山、48年の白馬岳蓮華温泉縦走と続いた。第10回目の白馬岳を最後として協会の都合で登山会は中止となった。松村高氏を総指揮者として多くの指導員やボランティアの献身的努力で無事故で来たことは、何としても大きな成果であったと思う。

山と云えば戦後は冬でも歩くという風潮が強くでており、冬山もワカン使用一辺倒であったが、最近漸くスキーが見なおされて来つつある。これはグレンデスキー技術、要具、設備などの異常な発達による靴、締具の構造にもよると見られるが、それよりもスキーを使用しての山野を跋渉するには、その技術を習得するのに時日を要することが大きな原因ではあるまいか。その点でも私は少くとも毎年、学生を連れて志賀高原、妙高高原等に出かける機会があるので、体力の衰えや技術の低下はあるにしても、先ず山野をかけめぐる程度のテクニックは確保できるので、古典的スキーと笑われるが博物館から持ち出したようなスキー、締具、杖などで古いスキー技術を楽しんでいる。

最近は地図とコンパスを使用して山野をかけ巡り、国民の体力づくりをするという総理府提唱のオリエンテーリングが全国的に盛んで、パーマネントコースというのが全国で300も設定せられている。京都府パーマネントコース第1号の天王山をもつ大山崎町のオリエンテーリング委員会に籍をおいて、最近は山よりも丘に乗り換えた感じがないでもないが、同じ地図と磁石を用いても登山とオリエンテーリングではスケールが違って、ひとつは大きな山容を見ての判断が多いのに他方は地形地物を利用しての10～50mの細部を詳細に把握しないと競技に勝てないというきわどい面をもっている。そして徒歩を中心とした体力づくり運動からエリートを集めての純競技的オリエンテーリングに移行しつつある現況では、常に感を働かせて実地に慣れておかないとよいオリエンティアになれないから、この面での精進を怠ることのできない最近の毎日でもある。

（退職10年、それは7月1日が山岳部発足27年でもあり、思い出すままにペンを走らせた。）

新緑の飛騨路

三　橋　　勉

5月14日午前8時半、我々A班（岡田、鷲見、牧、壬生、楠、渡辺朋、三橋）は、車2台に分乗して、名神東インターを出発した。

快晴にめぐまれた名神を快適に走り、小牧から国道41号線を飛騨小坂へ。そして御岳開発林道をガタガタと走り、頂度乗越峠で昼食とした。目の前に残雪の御岳さんが優大な姿で我々を迎えてくれてまず感激する。それから鈴蘭高原を経由して本日の宿泊地、野麦部落に無事到着した。まだ日が高いのでさっそく野麦峠まで行く事にして開通にそなえて工事中の道を通らせてもらい、20分程で峠に到着。寒いくらいの冷たい風が吹いていたが、夕暮れの乗鞍岳を目前にしてまたまた感激する。

宿に帰っておいしい山菜料理に舌づつみをうちながら宿帖に記された名文？をこゝで紹介しておきます。51年5月14日（金）夜　野麦　末広屋にて

＊　お月夜の野麦峠、幸せイッパイ‼　お腹イッパイ‼　青い空、オイシイ空気、乗鞍岳を目の前にして最高のお天気。京交山岳部万才‼　　みつはし　つとむ

＊　来てよかった。私の日々にたい自然（人情も含めて）を満喫して帰ろう。　楠　とし子

＊　13年前訪ねた野麦峠が忘れられず再度訪ねた。今はもうあのころのパワーはなく、御岳三ノ池の幕営地を朝出発。30Kgの荷もなんのその、夕方には野麦峠にテントを設けたあのころの私はどこにいった。ウエスト90cmの体をもてあまし、ボロのシビックSLを買ってヤットコサ峠に立つことができた。「我こゝにあり、CQCQ」とコールをすれど誰もキャッチはしてくれず、夕辺の冷たい風が笹原を吹きわたるばかり。ガタガタと宿の末広屋に帰ってみればテレビの上のタヌキ（はくせい）に我が身をみるおもい。ゴクロウっ往年の国体山岳選手

JR3XHG（エックスレー　ヘンリー　ゴルフ）

＊　数年来の願望であった野麦峠に今、立つ‼　いつの日にたるか、家内と一緒に　たとう。

51.5.14　鷲　見　敏　一

＊　野麦峠のけいかんは忘れられない。長い間、想いこがれていた野麦峠。10年ぶりに峠には……。山坂を経て参りました。末広やさんありがとうございました。（本当にありがとうございました）　またお世話にたります。　　牧　　定　夫

B班の武田君と連絡をとり、翌日、天生峠で3時に落合うことにし、静かな山の宿に一泊した。

15日朝、冷たい水で顔を洗って、やっと目がさめた感じの野麦を出発。昨夕、訪れた野麦峠にまぶしい朝の光がたちこめ今日も快晴である。開通一番乗りの野麦峠越えができるという事で、時間的に余裕ができ野麦峠の牧場（夏でないと馬がいない）等、あちこち散策してのんびり過した。信州側は少し道が悪かったが、慎重に下り、黒川渡でスーパー林道を走り、乗鞍岳の東面高原地帯

をゆっくり走り、景色の良いところで再三止まり（これが後々、時間的余裕がなくなる原因になる）パチリパチリとカメラタイムで、広大なる自然ともあいまって気持までゆったり、おゝらかな気分になり、芝生でゴロリとなる。白骨温泉に入ってから極端に道が悪くなり、工事中で思わぬ通行制限（時間待ち）にあい、国道に出た時は予定より1時間程遅れていた。釜トンネルの真暗な登り勾配で、ローギヤで走らなければならないのには驚ろいた。

上高地はいつきてもよいものだが、特に残雪の穂高がみえる大正池からの眺めは最高である。ここまできて帰るのは惜しいけれど、B班との約束もあるので、早々に引きあげた。

最初の計画では、高山市内もゆっくり見物できる予定であったが、それどころではなく、41号線を古川へ、そして角川から天生峠へ向い、最後の登りはせまくてヘアピンカーブの連続であったが慎重に走り、1290mの天生峠で籾糠山から下山してきたところのB班（武田、辻）と合流した。

珍らしくこぶしの花の群落があり、近くに水芭蕉も咲き残雪もある峠であった。

〔コースタイム〕

5月14日	東インター	8.25		乗越峠（昼食）	13.30～14.00
	小　牧	10.10		高嶺第一ダム	16.30
	美濃加茂市	10.30		野麦部落	17.00
	鈴ケ谷（ドライブ イン）	11.30		野麦峠	17.20～18.00
	飛騨小坂	12.50		末広屋泊（TEL 057759 2085）	18.15
5月16日	野麦峠	8.15～9.00		高山市内	15.10
	スーパー林道入口	10.15		河合村	15.45
	白骨温泉	12.00		天生峠	16.20～16.50
	上高地	12.30～13.05		大杉屋泊（TEL057696 0239）	18.00
	乗鞍スカイライン入口	14.25			

籾糠山・三方岩岳

武田喜久郎

花と雪と合掌造りの白川郷に向って深夜の京都を出発する。早く着いても困るのでゆっくり走って、蛭ケ野で辺りが白みだした。霜で真白な高原、満開のコブシと水芭蕉、黒いシルエットの鷲ケ岳、朝日はまだだが赤く焼けるような大日岳がチョッピリ残雪をつけている。

こゝからはカメラタイムのおゝいドライブとなる。三方崩山と白山の峯々、御母衣ダム、朝日の光と流れる霧は実に楽しい、澄んだ眺めだ。白川村荻町に6時過ぎ到着。うどんをつくったりコーヒを沸かしてガソリンスタンドの開くのを待った。町には観光用や民宿の合掌造りがいくつも点在している。

8時前にガソリンを詰めて天生峠へ、途中、中滝と岩壁に水の素晴らしい渓谷美に見とれる。振

りかえると白山連峰がまだタップリと雪をつけて朝日に輝く姿はなんともいえない。深夜の国道を休みもせずに走ってきて良かったと思う。天生峠の手前は、京都の東山の山稜のような丘稜となり天生牧場になっている。谷のあちこちに水芭蕉が白い姿を見せている。

峠には三角屋根の茶屋があって、駐車場もある良い峠だった。林道を少し入った所に車を置いて出発。ゆるい登りで、小谷を横ぎると匠の屋敷といわれる湿原に出合う。中央に社があって天然記念物に指定されている。表面に水はたまっていないので、少々もぐるが歩けるようだ。湿原は天生高層湿原植物群落として立入禁止となっている。湿原の右手の尾根筋にも道があるようだった。

左手の谷に降る。素晴らしいブナの原生林と清冷な谷川に小さな可愛いい水芭蕉が咲いている。こゝからコースは谷を詰めるのと、下流から尾根を登るのに別れる。しかし、こゝからは残雪がいっぱいで、道は分らない。地図から見ると谷詰めが地形がつかみやすい。事実、地元の人より正確にルートをとって頂上に達した。藪こぎこそほとんどないが、谷が複雑で迷わないと思うが、下山時にロスや迷いがあってはと入念にルートをたしかめて登る。途中で高山側の河合村の人達に追いつかれる。しばらく同行したが、やはり別れることにして軽く間食をとって休んだ。谷をトコトン行くと、山の肩というより首のような稜線に出て頂上に達する。真下はすこし斜度が強くなるが、一息で三角点にとびだした。

頂上は良い展望台だった。北アルプスが毛勝三山辺りから、剱、立山、薬師、上の岳、黒部五郎、蓮華、槍・穂高、それらよりも乗鞍岳、御岳がスケールの大きさ見せて、さすが北アの岩峰群も影がうすい。三ケ辻山、金剛堂山、猿ケ馬場の裏には白山山脈が大きく波をうっている。

パートナーが山にたれてないのか、A班との約束時間を気にする。猿ケ馬場山までは1時間はかからないと思うが、連れは無理なようだ。一人で行こうと思ったが、河合村の人達が下山した場合一人になり淋しがって変なことになってはと思い断念した。天気は良いし眺めをさんざん楽しんだ後、ひる寝することにした。

ほんの10分と思ったが、1時間眠ってしまった。頂上から尾根筋のコースがはっきりと分るが、元のコースを下山した。天生峠に帰りついてゴミを燃やしたりして清掃、ついでに車も。コーヒを沸かしてA班を待つうちに河合村の人達が帰って来た。峠の茶屋の主が中にいた。下山時にカメラアドバイスした若者も入って、ビールでカンパイ、旨い。これからという所にA班到着で、今度はコーヒでカンパイ。

その夜、合掌造りの大杉家で山菜が旨く、酒も旨く話もはずむ。おまけに岡田君達が昨年会ったカメラマンと再会して大変愉快な一夜となった。夜になっても気温が高く風も強くなったが、ぐっすり眠った。僕のナイトミュジックで寝にくかった人には、ゴメンナサイとおわびします。

第2日。いまにも降りそうな空模様だったが、三方岩岳に登ることにした。大杉新道を登らず、白川スーパー林道を途中迄車で登る。高岡の若者達も一緒に登る。途中で牧さんが体の不調で下山された。ショジョバカマ、カタクリの群生、チゴユリ、ユキザサ、特に本当に久しぶりに高い所、しかも登山道で見たカタクリと青いショジョバカマの花は嬉しかった。きつい登りのたいまゝに三方岩岳手前鞍部の小屋に着く。残雪がびっしりとある。若い連中は休んだが、我々はひたすらに登

る。飛騨岩の下で雪渓をトラバースして加賀岩の上に立つ。陽もさしてきて、白山本峰も顔をチラリとのぞかせる。強い風の中で写真をパチリ。昨日の籾糠山、猿ケ馬場山、三ケ辻山、大笠、笈、猿ケ山と登りたい山が続々と、ぜひ次はいらっしやいと呼びかけてくれる。下山は飛騨岩のガリーをダイレクトに下降した。

三方岩の小屋に戻って食事にした。中は汚れているので戸外の雪上でいろいろと美味に、登山のもう一つの楽しみを喜びを味わった。幸い下山するまで雨にも会わずに、良い山旅だった。少々きついと思ったが、楠さんにも生まれて始めての雪渓のトラバース。しかも体の不調で、しんどかったが、よくガンバッて登っていたゞいた。又、秋の紅葉に白川の山々を訪ねてみたい。

〔同 行 者〕

辻 久雄、三橋 勉、鷲見敏一、楠とし子

〔コース・タイム〕

5／14 京都23.50 5／15 白川村6.40～8.00…天生峠8.50～9.20…匠の屋敷9.45…籾糠山12.20～14.10…匠の屋敷15.20～25…天生峠15.40～16.50 5／16 大杉家7.15一車一ロボット7.45～7.50…三方岩小屋8.55…三方岩岳(加賀岩)9.52～10.15…飛騨岩10.30～11.00…三方岩小屋11.25～55…ロボット12.30

「第１０８１回例会」

大台ヶ原山と三ノ公谷

横大路 進 藤 義 治

５月１９日 小栗栖団地で松永氏と待合せ、井上氏の車に便乗して山下栄ちゃんを迎えに行く。同車で近鉄久津川駅に待機。大西、田中、小林氏と落合い、２台の車で６時出発、24号線、166号線と走る。途中、どしゃぶりの雨で視界が悪く、走りにくい。雨は止みそうにもないので予定を変更して、大台ケ原ドライブウェイへ向う。料金徴収所で道路の状態を聞くと、落石に注意して走るように云われた。霧と雨の中を、大台ケ原の駐車場に着く。

公園の事務所で宿をたずね、大台教会山ノ家に着き、昼食を済ます。1時間ほど休憩して、小雨の中散策に出かけた。午前中の大雨でモヤがかゝり、遊歩道には水が出て歩きにくい。霧の中に大樹と笹、そして古木の立枯には苔がいたるところに付いていて見事である。いかにも古い山肌だなアと思った。

秀ケ岳に登りバンザイ三唱。他の男女７～８人のメンバーと出合う。これから桃の木小屋まで行くと云う。「気を付けて」と挨拶を交わした。トウヒ林を眺めながら正木ケ原、尾鷲辻と通り牛石ケ原に着く。５m強はあると思われる神武天皇の銅像を見上げながら、こんな巨大な像をどのようにして運び、建てたのか話題になった。しばらくすると雨も上り、大蛇グラの断崖絶壁に着く。周囲の景色を眺めていると、下から吹上げてくる風にガスも晴れ、岩と岩との間から２筋の滝と新緑が見えて来る。左の滝が西ノ滝で、右の滝が中ノ滝と云う。すばらしい眺めであった。

大蛇グラをあとにシオカラ谷へ向う。途中に蕾を付けたシャクナゲの群生林を見る。しばらく歩くと吊橋に到着。時計を見ると3時半、これで大台ケ原の名所はだいたい見終った。まだ時間的にも早く、国立公園内ではキャンプも焚火もだめだとの事なので、山の家を引き払う事に相談がまとまった。

大台ケ原をあとに、大迫ダムを経て三ノ公谷に入り、林道終点で幕営。河鹿の鳴く川原での焼肉と冷えたビールは格別であった。焚火も消えて２２時頃就寝。

２２日　4時半起床、5時に食事を済まし、テントその他を各自のザックに詰め車のトランクにしまい、軽食とお茶を準備して薫峰へ向う。途中、三ノ公谷左岸へ流れ込んでいる谷の丸太橋を5つぐらい渡って行くと、３０分少々で八幡平に着く。京交山岳部にはおたじみの西浦さんご夫婦と挨拶を交わす。明神谷出合からしばらく行くと、明神滝が朝もやの中から見えて来た。明神谷出合から1時間あまり歩いた谷の出合に「カクシ平」と云う標識が、トチの大木に打ち付けてあった。その谷を親王墓めざして登って行くと、2時間程で尾根に出てしまう。しばらく尾根を登り、地図を拡げ磁石で方向を確かめると、かたり西の方へ来ているようである。さらに尾根を登り詰めると焚火の跡のあるピーク（１０６０m）に達した。薫峰は２つ向こうの山で、かたり距離もありそうなので断念して往路を下る。本谷出合で「カクシ平」の標識を再確認すると、矢印の方向がどうもあいまいである。カクシ平の谷は、さらに奥なのだろう。

途中、山ぶきなど採りながら八幡平を経て、三ノ公谷林道に１３時過ぎ帰着。荷を整理して出発。１５分ほどで入之波温泉に着く。ダムの景色を眺めながら温泉につかり、２日間の疲れをとる。山鳩湯名物、山菜料理をサカナによく冷えたビール（ハンドルを持ってくれる、山下、小林両氏はジュース）で乾杯。１５時半、入之波を出発、久津川１７時着。ミスタードーナツでコーヒーを飲み、費用の精算をし、２台の車に分乗して家路に着いた。

〔コースタイム〕

5月19日　雨のち曇		16.00～16.15	大台ケ原駐車場	7.45	カクシ平谷
6.00	近鉄久津川駅出発	18.00	三ノ公谷林道終点		（一筋手前の谷）
10.00	大台ケ原駐車場着	22.00	就　寝	9.50	尾根(踏跡あり)
12.30	大台教会出発			10.00～15	1060mピーク
13.10～13.20	秀ケ岳山頂	20日　晴		11.30	本谷出合
13.50	正木ケ原	4.30	起　床	12.50	八幡平
14.20	牛石ケ原	6.00	出　発	13.20～35	三ノ公谷林道
14.25～14.35	大蛇グラ	6.30～6.40	八幡平	13.50～15.30	
15.30	シオカラ谷吊橋	6.50	明神谷出合		入之波温泉
				17.00	久津川着

〔参　加　者〕　７名

大西純一、井上国雄、田中忠久、山下栄次、小林達雄、松永繁木、進藤義治

金　草　岳

三　浦　貞　義

近ごろ中年ぶとりのせいか、８０キロ近くに体重がふえてきたので、美容体操をかねて妻同伴で、みんなの好意に甘えて金草岳に同行した。

明方の4時に名神インターチェンジ集合はつらかったが、2台の車をつらねて名神ー北国街道経由北陸線今庄駅近くの今日の登り口、芧ケ平に向った。

メンバーがメンバーだから、どうせこうなるだろうとは思っていたが、案の定、冒頭からけだものもさけて通りそうなけわしい谷歩きが始まった。妻は、生まれて始めてのひどい谷歩きとそれをいかにもごく当然の山登りと考えて喜こんでいるみんなの〝異常感覚〟とにびっくりして、「だまされた」「何でこんなところへ来たんやろ」といかにも不安そうな、腹立たしげな表情でおそるおそる皆について来ていた。

しかし、先にまいってしまったのは僕の方だった。一足一足踏み出すごとに汗が岩の上にポタポタ落ち、つぶれかけの汽関車のように息がきれ、日頃の不摂生が身にしみた。まあ、奥美濃の山道としては比較的快適で、谷もそれほど荒れていない。谷水の切れた地点からの急峻なつき上げを、しゃくなげの枝をかいくぐって登りつめ、ガスでわけのわからない、だだっ広い稜線ぞいのけわしいやぶこぎも、田中、武田両君の山猿か熊もはだしの動物的超能力で最良コースをたどることができた。しかし、やぶの中に忽然と現われた三角点にたどりついたときにはつかれはてた。

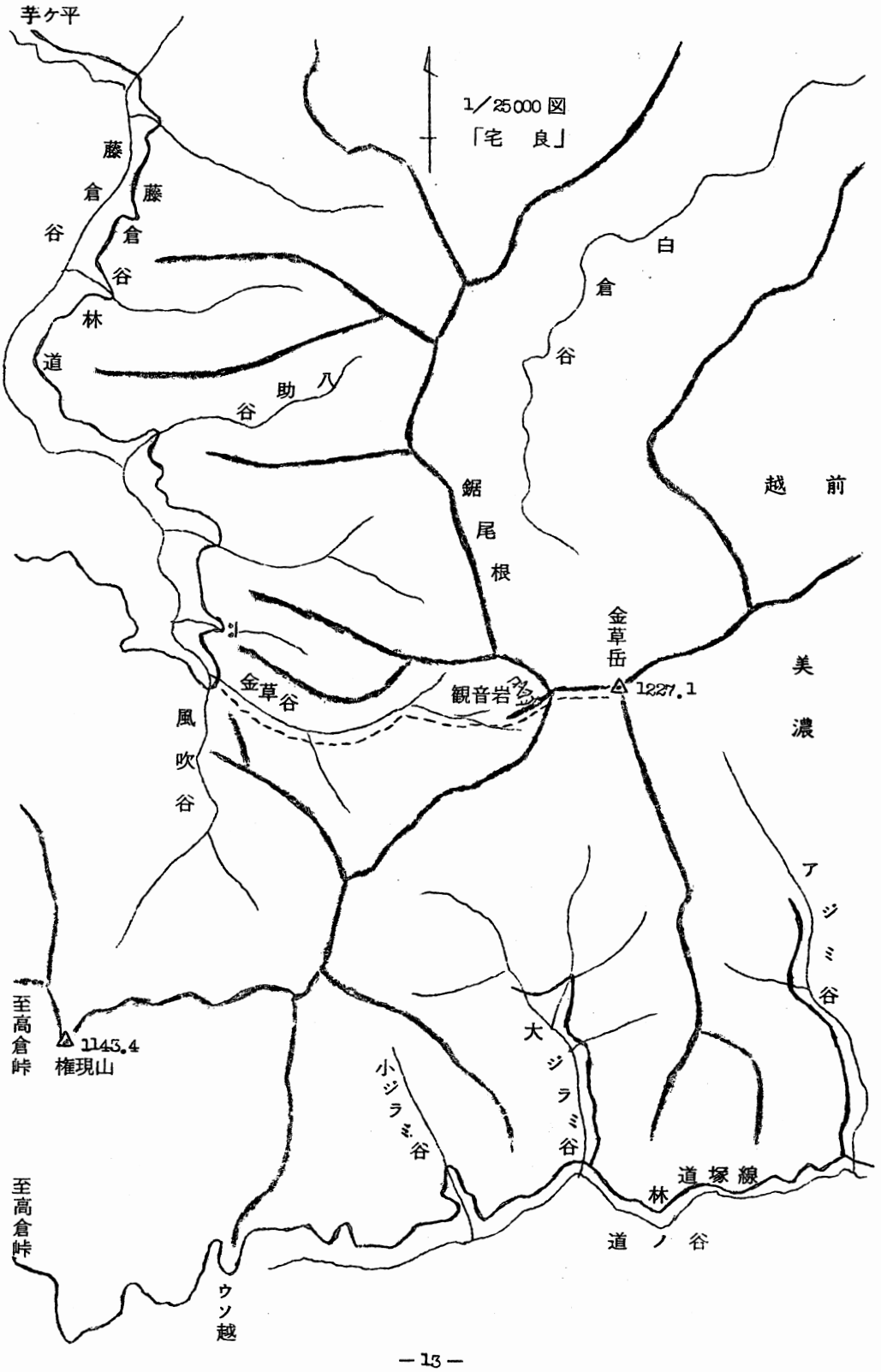
天気予報は雨ということで、当初から雨の中の行軍の予定をしていたのが、風はつめたいのだが一応曇天だから、気分は快晴以上であった。いづれにせよ、一年ぶりぐらいの山登りで、太り目の身体をひきづって、足もとだけを見たがらようようみんなの後についていった山登りであった。

田中、三橋君から、部報に記録を書けと強制されたが、どこをどう歩いたのか記憶に定かでない。還暦登山後、ますますみがきのかかった牧さんなどは、のこぎりでしゃくなげの枝を切り開きながら余裕しゃくしゃくでみんなを先導して下さったのにくらべ、ふがいない次第である。

帰路、芧ケ平の名所で、その昔比叡山をおわれた蓮如上人がかくまわれたというほら穴見物に小1時間を費した後、京都に向った。

〔コースタイム〕

5月31日	小雨・霧のち曇		9.20～9.30	右岸より谷 休憩	標高880 m
4.00	京都東インター		9.45	〃	〃 950
6.05～6.15	栃ノ木峠		10.00	水流終り	〃 1050
7.00～7.05	芧ケ平	標高 300m	10.05～10.10	休憩	
7.20～7.50	林道・金草谷出合	〃 550	10.35	シャクナゲの尾根	〃 1150
8.15～8.35	二俣 朝食	〃 700	10.40	県境尾根	〃 1200


芋ケ平
1/25000図
「宅　良」
藤倉谷
藤倉谷
林道
八助谷
白倉谷
鋸尾根
越前
金草岳
1227.1
金草谷
観音岩
美濃
風吹谷
アジミ谷
至高倉峠
1143.4
権現山
小ジラミ谷
大ジラミ谷
道塚線
林道ノ谷
至高倉峠
ウソ越

11.20～12.15 金草岳昼食　二等三角点1227.1m　15.45～16.30　芋平
14.50～15.30 林道・金草谷出合　19.30　京都東インター
〔参　加　者〕　8名　車2台　（記録　田中）
牧　定夫氏、宮後正樹、三浦貞義夫妻、武田喜久郎、三橋　勉、上島和彦、田中忠久

大棚入山と辰ヶ峰

伊　藤　潤　治

山に出かける日が近づくとお天気が気になる。この度もまた快晴の山のぼりを得さしめ給え、と念じつつ旅立ちの日にそなえていたが空模様は、いよいよ急、かつ変であって6月4日、中国、四国地方が入梅宣言。

その余波をかぶったか、関東以西の天気予報は、軒並みに雨天であるという。たしかに無茶なようだが、私の山を求める心は「荒れて狂うは、吹雪か雪崩、俺たちやそんなもの怖れはせんぞ」という始末であって、悪心といわれても思いとどまれず雨の中を、6月5日は予定に従って強行に移った。

やはり雨で気分がしめったのか、あるいは、足が重たかったのか大棚入登山口到着は1時間の遅刻となった。せっかく馳けつけたけれど大棚入のいただきの方では、登頂を拒むが如き厚いベールを吊れ下げてなんとも連れないそ振りであった。また、天も雨をそそいで帰れ帰れとつぶやいている風にみえた。こんな冷たい、はく情な仕打であっても、私の胸はここに来ていることと、ここの麗わしく爽やかな大気を一パイ呼吸していることで満たされ、微塵も悔ゆるところはなかった。

しかし念願の山地を訪れた足は、登頂が困難というのなら登頂はともかくとして山肌も知らずに引きさがらんぞ、と一人いちびっていた。気がつくと空は明るくなり雨もやんでいた、そして一瞬であったけれどガスの一部が破れて、白い雪渓をつらねた駒ケ岳の巨大な山裾がのぞいた。殊によると大棚入でもぼってりとした雪渓をいくつも抱えていて佳き眺めを呈しているかも知れない、と思わす光景であった。

この淡晴れ現象をただちに天候好転の兆として喜ぶのは早計にすぎるが、すくなくとも大雨の危険や心配はうすれたと判断できると思ったので、とりあえず2～3時間をルート偵察のつもりでついやしてみることにする。

草の群がる原を2～3分歩くと濃ケ池川の岸辺に出て、ルートは右岸にあった。激湍は絶叫を以って飛走し、磊磊また地に轟く瀑を懸かげ鮮緑を透す金鈴の如き囀　大棚入の道はまさに楽園である。やがて雨にもどったので傘をさし、渓谷とも別れて登っていった。雨はやまなかったが、駒ケ岳の雪渓はそのごも時々私たちの目をたのしませてくれた。

このルートは、初めに予定してきた道と違うと、踏みこんだ時すぐ知ったのだが、あまり道の相や質がよろしいのに惹かれ、また地形図によってみても何れ行先で思うコースにつながっていたた

め辿ってきたのである。けれど中食をすまし、いよいよ調子にのった。高度1650m、時刻12時35分の地点に到って性の良い道は倒木の群がりを境目にして途絶えていた。あまり頑張るつもりはなかったが、予定ルートには出会って帰りたかったから、それまでは続いてほしい道であり、接続していると信じていた。

予定ルートの接点は、地形図の示す地点には見当らぬまゝ通過してきた。しかしそのため、かえって好条件の位置に達しているのだが、もどかしき哉。ガスのとざすところであって、ガスさえなければ、訳もなく予定ルートの所在はそこに確認できた筈である。

登行を断念して下るにしても心残りのないよう偵察を充分すべく倒木群を乗越えていくと、草木生茂り、暗緑にして苔むす荒涼たる原生林で、歩みは標高1670m、時は13時5分でとまった。原生林の寒気は身にしみた。せめて樹下に暖をとこころみたが、努力の甲斐ものろ火は育たず、もはやこれまでと観念し、非常時用のヤクで暖をとりわれらが最良の訣別といたすべく「やまよさよなら　ごきげんよろしゅう、またくるときには　わらっておくれ、またくるときには　わらっておくれ」を合唱して、樹下を14時に辞したのであった。

ところが、これでスンナリ下れたのではない。不覚にも帰路を失っていたのである。頼れる記憶がまるでなく、早くのがれ去りたいあせりの心、ヤクの加減か心もとない足どりで出口を求めて原生林の彷徨は、何とも不安なものであった。

やがて牧さんから〝これはリングワンデルングをしてまっせえ〟そういわれて牧さんの指差す方を見れば、なるほど牧さんが先刻採取して置き、捨てた筈のサルノコシカケがちゃんとある。あゝ地元でいう「おおだな」の意味はここにあったのかと、私はギョッとした。

しかしサルノコシカケのお影で退路が感知できて、すぐ原生林を脱出できた。かくてこの大棚入登山の巻は、牧さんのサルノコシカケの功名手柄のくだりをもって、先づはこゝに目出度く完。

〔参加者〕　牧　定夫、伊藤潤治

〔コースタイム〕

名神京都東 5.09 ―中央高速道中津川 8.00 ―濃ケ池川車止 10.00…中食1600m地点 11.50～12.15…道の途絶え1650m 12.35…原生林1670m 13.05～14.00…濃ケ池川車止 16.35 ―木曾福島 17.00 ―開田村ふもと屋 17.35　　この日の行動は、雨のため予告の一部を変更した。

夕食時、テレビの天気予報は期待を裏切り「5日　北海道と東北の北部を除いた日本列島は一斉に入梅である」と気象庁の発表を伝えた。しかし老兵たりといえども吾等2人は、土砂降りの雨の中でも登頂を果たそうとして健気な覚悟をもって訪れたのであるから、その予報はどうでも好きにおしやすという静かな気持できいた。夜中、はげしい雨足が時折り聞えていたが、眼醒めてみると降り疲れたともみゆる6日の朝であった。

大棚入でのぬれ衣は、ボイラー室の提供をうけたおかげで気持よく着用できたけれど、今日、山をのぼってここに戻ってくる時はまた見事なぬれネズミは必定であろうから、お風呂をたててもらうようよろしく頼み辰ケ峰に向う。

辰ケ峰、この山名を知ったのは1968年8月8日求めた道路地図によるが、この山が20万地勢図「飯田」5号　木曾福島5万地形図等で長野県木曾郡開田村地内に在る二等三角点、標高1816.9mを確認したのは何時ごろか記るされてないが、開田村役場から辰ケ峰の登山資料は1974年11月15日着となっている。開田村役場からの辰ケ峰案内は、辰歳にちなみ開田高原の辰ケ峰の登山を計画されているようですが、特別この山に何かあるという訳ではありません。ごく普通の山で、ほとんど植林されている山です。辰ケ峰への道は、西野神田部落からのと把ノ沢からのと2本ありました。いずれの道も昔から地主の人達が山仕事に行くための道でしたが、現在は山仕事もすくなく神田部落からの道はほとんど雑木が生えて歩けないようです。把ノ沢からの道は現在でも途中までは利用していますが、所によっては相当あれているようです。

であって、地形図をみたところでは、神田と把ノ沢から小径が配され、いい山に違いなかろうとたのしんで問合せたのに、辰ケ峰もそれに登りたいという私もこれは継子扱いにするあきれた説明であると思った。しかし考えると、どうやら地元のきつい御岳さんびいきからもれる言葉のようだ。

私たちの予定ルートは、新しく購入した木曾福島五万図により、髭沢川林道から弥十沢を辿ろうときめてきた。髭沢部落に入って得た情報も、西沢に国有林の境界線がありますという、私たちの思惑以上のもので満足だった。

髭沢川林道は、途中牧柵を設け施錠してあった。ここより西沢へは、橋を3つ渡って約200m徒歩の所要時間タッタ30分で達するそうだ。

思ってきたことが一つ当ると、はづみがついて妙に善事が相次ぐ。その瑞兆の一は、登ろうと選んだルートであり、次が空に晴れ色が染まり、雨の憂いをぬぐい去ったこと。つづいては、牧柵のため車行をはばまれた如くにみえたが、実は其処から車を捨てて登る最高のよきルートが発見できた等々、よろこばしき哉ばかりであった。そのルートというのは、木戸沢左岸尾根の国有林境界線だが、ブナの巨木が立ちならぶ自然林をぬってゆく痛快な道。加えて新緑のもえる中に真紅のレンゲツツジが咲き競うから、その景観はものすごかった。また境界標識は、林班区毎の設置であるらしく、林相のよさに釣られてつい歩き、2ケ所で行過ぎたり、思いがけない立派な藪こぎのご馳走になったり、結構たのしませてくれた。

把ノ沢ルートへ合流してからは、御岳さんをすぐそこに見ることになるが、また真紅のレンゲツツジの大群落がほこる花の尾根道であった。弥十沢左俣谷の頭への急な登りになって遊歩道は消え神田ルートに会う峰頭からは神聖なる藪の茂みが頂上へつづいていた。

頂上寸前に達した時、何者か人声あり、気配は後方であった。私たちが辰ケ峰に登頂し、三角点をあらため終って間もなく声の主たちが現れた。どこからお登りになったかとたづねた答えが、京都から来ましたであるからびっくりした。しかしさらにその人達は、毎年の干支に因む山名の山を登っていること、またその人達が熊笹会だときいて私はこの奇遇にあきれて暫くものがいえなかった。熊笹会さんとは、イソクラ1540mや青波1081m（能郷白山五万図）の山行をともにした河野舜造さんの会である。河野さんとは、1973年7月29日以来のごぶさたであり、お互い時のたつのも知らずにこの稀なる山上での出合いを慶び合った。

京交は老年2名であったが、熊笹さんは精鋭14名の登頂だから、頂上はたちまち満員になった。辰ケ峰がこれだけ多数の登頂者によって1時間半にわたる歓声をあびたのは、しかも鍛沢、把ノ沢、神田のルートをつくし、京都という都人たちが機せずして頂上に会合したのは、辰ケ峰の登山史にはまさに最初にして最後の記録となるに違いない。熊笹会のご隆盛を祈ってやまない。

〔参加者〕　牧　定夫、伊藤潤治

〔コースタイム〕　6月6日

ふもと屋7.10－牧柵7.22～45…把ノ沢ルートへ合流9.40…辰ケ峰10.00～11.30…牧柵13.50－ふもと屋15.00－中央高速中津川I.C 16.57－名神京都東19.13

熊笹会さんのご隆盛、長久をねがってやみません。　（1976年6月17日）

例会報告

例会No.	目的地	月日	天候	担当者	参加者	記事
1081	台高山脈 池木屋山	5月19日 ～20日	雨 晴	横大路 大西　純一	井上　国雄 進藤　義治 田中忠久、山下栄次、小林達雄、松永繁木	予定通り6.00に出発したが、降雨が激しかったので、大台ケ原に登る。山頂を回遊して戻って来た頃雨も上ったので再びドライブウェイを下り、三ノ公谷にテントを張った。久しぶりの台高は楽しかった。西浦さんも相変らずお元気で「伊藤さんは近ごろおいでにたらんが、元気ですか」とたつかしそうに話しておられた。入之波温泉も大変けっこうでした。詳細別稿
1082	奥美濃 金草岳	5月30日	小雨	横大路 田中　忠久	牧　定夫氏 宮後正樹 三橋　勉 武田喜久郎、上島和彦、三浦貞義夫妻	小雨の中、待望の三角点を踏んで来た。雨天決行という気合の入った山行でもあった。 詳細別稿報告
1083	大柵入山 と辰ケ峰	6月5日 ～6日	雨 晴	名誉部員 伊藤潤治氏	牧　定夫氏	1日目は雨であったが、2日目天候に恵ぐまれて、辰ケ峰に登って来た。頂上で熊笹山岳会のパーティに逢う。詳細別稿報告
1084	家族ハイキング 鷲峰山	6月13日	曇	横大路 田中　忠久	三橋　勉と子供2人 進藤義治と子供1人 田中の妻と子供2人	鷲峰山金胎寺の行場で子供達と遊ぶ。初めてザイルを付けた子供もたれるに従って懸垂下降などもかなりうまく出来るようになり、楽しそうだった。

梅雨空で行場巡りの人は少なかったが、好天の日曜日などは、何百人となく訪れて来て大変だそうだ。とくにゴミの始末が大変だと寺の人は話していた。行場巡り約4キロ2時間コースと案内図にあったが、私達は岩の上で弁当を食べたり遊んだりして4時間で廻った。子供連れにはちょっとした難コースでもあった。犬打峠ー金胎寺ーパラボラアンテナー1等三角点681.2m一殻池峠と結ぶ林道を走ったが、雨上りのせいもあってこれまた難コースであった。

1/5万図　「京都東南部」「奈良」

部員動静

〔入　部〕　本局　　原　勝治　　中・東洞院二条上ル　　S 5. 6.24生

〔山　行〕

目的地	月日	天候	参加者	記事
白山	6月12日 〜 14日	曇 後 晴	宮後　正樹 坂井　久光	6月の白山、それは豊富な残雪と新緑とそうしてミネザクラをはじめ春花で飾られた好季である。日本山岳会の現地集会が所属する岐阜支部担当で実施されたので急拠はせ参じた次第。飛騨側の登山口手瀬道からカンクラの大雪渓を登り室堂に至る。御前峰の一等本点を極め、剣ケ峯と池めぐりを楽しみ室堂に一泊。翌朝5時岩間へ下る本隊を見送り、小生は手瀬へ下山した。梅雨の中休みに恵まれて北海道から関西まで参加者50人ばかりで楽しい山行と交流が行われたが、望月副会長以下老若男女といつもご年輩者が多く心強い山行だった。
三上山	6月14日	晴	宮後　正樹	こんな機会でないとなかなか登れない。白山の帰途時間も早いので名神を栗東で降りて三上村に着く。石段を5分も登ると妙見宮があるが、屋根も崩れ床も落ちて荒廃甚だしくあわれな姿を呈していた。 お堂の右側から山出こども会の指導標がずつと山頂へと導いてくれる。岩場のルートが15分ばかり続き次第に見晴しが利いてくる。鉄柵のある岩場を登り切ると最後の急登で鳥居の立つ山頂である。38年8月求道閣有志一同奉献の社殿が二つあり石地蔵さんと鏡がそれぞれ納めてあった。社殿奥の山頂は見晴らしもなくゴミの山なので近寄らぬ方がよい。それにしても名神、8号線、新幹線と実にやかましい山である。天下の近江富士も迷惑なことである。

三河の国 竜頭山	6月18日		伊藤　潤治 牧　　定夫 ほか1人	２０万地勢図「豊橋」図には▲をつけた竜頭山が佐久間図（２号）と田口図（６号）の二山があり、前者は遠江国の山であり、後者は三河国の山である。遠江の竜頭は昨年７月２６日登頂したので、昨６月１８日三河の竜頭を牧定夫氏、松本花子（趣味登山会）さんの参加を得て登頂をすましてきた。標高が７５２mだから小粒といえるが、山頂は北設楽郡設楽町と南設楽郡鳳来町、同郡作手村にまたがっていて、登路がなかなかはっきりしなかった。設楽町役場より同町竹島から登るよう教わるまでは鳳来町恩原から取組むつもりであった。私たちは竹島から渓谷美の沢伝いを登った。頂上はだゞっ広くて伐採と植林でまことにシマラナイ風景であった。そんな乱雑をほしいままにまかせてあるためもあって、二等三角点の所在がしばらく分らずやきもきさせてくれた。訪れて分ったことだが、登路は二町一村それぞれから通じていた。ちっちゃくとも登りごたえは巨きかったリュウヅサンであった。（6月１０日）
大文字山 （第5回）	5月29日	曇	畑　　照人	ようやく今日、５月のお参りすることが出来た。鶯がなきくろあげはが舞っている。ツツジが満開だ。ガクアジサイもそろそろ咲きかけである。今日のおみくじは、１番の大吉である。いつも凶ばかりであったのが最高のものとは気持よい。お水をポリタンに一杯つめて帰る。
（第6回）	6月３日	晴		よい天気である。これから梅雨期に向うので好天気を外しては大変と自転車で山へ行く。といっても車はダムまでである。何か変った木はないかと見ていたら、「タラの木」がみつかる。直径１３㍉位の細いものだが、トゲはしっかりついている。モチツツジが多い。昆虫では「ハンミョウ」がいた。蝶で一寸変ったのを見た。黄色の中に黒いすじが入り、まるで虎の皮の模様みたいである。帰ってから図鑑を見たが分らない。　家12.50　→　帰宅16.30
（第7回）	6月16日	晴		高気圧が張り出して一日中快晴との予報を聞いてはじっとしていられない。６時車庫発の市電で百万遍まで乗りそれから歩く。北白川街道の地蔵さんに、昨日が１５日だったので新らしいお花が供えてある。こゝで記念写真をとる。大文字中心点もきれいに整理されてごみも落ちていない。朝の冷たい空気と共に清々しい気持である。お茶とお菓子を御供えして拝む。池の谷地蔵さんも早い為かいつもよばれるおいしいお茶の用意が出来ていない。おみくじを引くと、あら珍らしや１番大吉である。これでやっぱり早朝参りの御利益があった様な気分になる。帰りも同一コースで下山する。学生の一群に出合うが、８人中の５人までが眼鏡を使用している。日本人の眼鏡使用の多い事が感じられた。１０時３０分車庫着。
愛宕山 （第12回）	5月31日	曇	畑　　照人	自転車で行く。空也滝道から梨木谷の途中で朝食をとる。梨木谷林道の終点へ着く頃は汗でビッショリ。ポロシャツとステテコ脱いで登る。この前の冬期には道が凍結して固ったものだ。今日は雨水の増大で沢歩きである。首無地蔵で一服、誰かが動かしたのか、いつも東向の地蔵さんが南向きになっている。神社参拝。帰りは首無地蔵からの道を間違って高雄道へ下りてしまった。どうも変だと思い乍らもすぐ引返せば

				よいのに遂に下まで下り、再びもとの道を引返す。然し気が張りつめていた為か少しも疲れを感ぜず、全く同じタイムで首無地蔵までかえり、今度は間違いなく林道終点へ出る。ミツバツツジの満開である。アマドコロ、マムシ草、ゑんれい草はまだ葉ばかり、ガクアヂサイはつぼみが沢山ついていた。 コースタイム 西大路五条 9.00 ー清滝トンネル入口 10.00…梨木林道終点 11.35…首無地蔵 12.10…神社 13.00…首無地蔵 13.50…高雄道 14.30…首無地蔵 15.10…梨木谷 15.35…家 17.00
ポンポン山	6月14日		畑　照人	梅雨の一寸一服というよい天気となりました。東向日駅から善峰寺行きの団参バスに乗りました。5月も4月も14日は雨でしたのに梨雨の今日が上天気とは全くついています。初めての山へ行くのには一寸心配な事がありますね。道の状態はどうか、道標はどうなっているか、岐れ道で迷うような事はないかなど…。又楽しみもあります。どんな草木があるか、どんな昆虫がいるだろうか、然し道はよい。杉谷までは車が通れる様に整備されてます。山道もかなり広くこの前の大雨で土が流され石ころ道となってはいましたが、ごみもなく快適な山登りです。然しこの良い気分も山頂へ到着した時一ぺんに消えました。何とまあ紙屑や弁当がらの山です。一服する気分にもなれません。こゝで思い出しました。西山の山清掃に参加していなかった事を、私1人の山行だから思い切って片付けてやりましょうね。約30分の奉仕できれいになりました。さっきの不愉快な気分は消えて心も軽く下山しました。　東向日駅 9.30 ー善峰寺 9.50…ポンポン山 11.00～45…灰方 14.42…東向日駅 15.00

雑　報

6月リーダー会報告

6月4日　石田宅

出席者　宮後、田中、武田、石田　（欠席　岡田、大槻、鷲見、坂井、徳野、岡本）

＊　7月リーダー会、集会、例会、夏山等の打合せを行なった。

＊　坂井氏500回登山記念を6月27日（日）フカンド山において行い、記念品を手渡すことにする。記念品（ナイフと水筒）の費用は、当日参加者とリーダー団で徴集する。

6月集会報告

6月16日（水）　下鴨寮

出席者　名誉部員　近藤　薫氏、　本局　宮後、三橋、壬生、楠、渡辺朋、武田

九条　河村、　横大路　田中、　醍醐　守山　　計10名

例会報告があり、2万5千分の1地図を利用して金草岳の谷筋を登ったが、地形がわかりやすく、なれゝば5万より活用範囲が広く、これからの山行は大いに2万5千を使用しようと話し合った。最後に、岡田氏撮影の白川郷等のカラースライドを映写した。

部費受領

昭和50年度　前後期

西賀茂　青江　均　　本局　原　勝治　　九条1　山下周道、羽根田一男、東　昭次

一般寄附金　山本信次郎、近藤　薫

京都最高のアクアラング用品専門店

- ウェットスーツ製造直売
- 潜水器具特別割引販売
- 現役プロダイバーと全日本潜水連盟公認指導員による安全確実な潜水指導（毎週木曜 夜7時ヨリ）

ダイビングプロショップ
エリート

スキューバプロ（米）京都総代理店
スキューバアポロ　京都総発売元
AMFボイト（米）京都総代理店
テクニサブ（伊）京都総代理店

〒603　京都市北区堀川通北大路上ル東側　TEL 075-(492) 8450

PRO SHOP
山とスキーチロル
輸入品とオリジナルの店

AM12.00～PM9.00三条御幸町下
定休日　月曜日（221）6186

まかせて下さい…ネ
山とスキー
のことなら…

☆在庫豊富にとり揃えています
☆山の道具は"ゼヒ"御相談下さい
☆友の会会員募集中(毎月1000円)

山とスキーの専門店
ゆりイケ

河原町店　上・河原町通丸太町東入
烏丸店　中・烏丸丸太町南下ル東側

昭和51年7月1日

京都市中京区壬生坊城町48

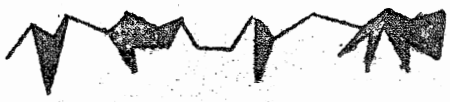
京都市交通局内　京交山岳部

テニス用品
スキー用品
山　用　品

交通局の皆さん
とりあえず　京菱へ
満足のいくようにします
京菱運動具店
下・大宮松原上ル
TEL 801-1331

みんな知っている
古くからの厚生会特約店
野球用具　硬式・軟式専門店
ゴルフ初心者向クラブ沢山
あります　特に偶数クラブOK
以上の商品なんでもOK
購買証御利用下さい
月賦可　電話にて御注文下さい
KK西沢スポーツ
中・釜座御池下
(221) 5739

帆布・濾布
テント・シート
雨合羽
十村工業有限会社
京都市中京区ミプ車庫前
TEL801-5331(代)
名古屋営業所
名古屋市西区児玉町7-30
TEL 521-7541代-4


真の専門店として
好日山荘は前進しております
山とスキー用具の
ことなら御まかせ下さい
確信ある用具を
確信ある価格で・・・
好日山荘
河原町六角下ル東入ル
TEL 241-1731

山を美しく//

山のごみは

各自持って帰りましょう。